学校番号	3018

令和２年度　　公民　　科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	（　１　）単位	年次	（　３　）年次 ※前期実施
使用教科書	高校　政治・経済（実教出版）						
副教材等	最新　政治・経済資料集２０２０(第一学習社)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

政治・経済の学習については、２年次に学習した現代社会の経済分野の知識をもとに、経済とも関連の深い政治分野について学習する。さらに国際経済についても学び、日本の政治・経済、国際政治・経済のそれぞれが相互に密接な関係を持っていることを認識することを目標とする。さらに地球市民の一員として現在の日本および世界が抱える課題を認識し、その解決方法についても考察し、自分の考えを形成することも肝要である。このためには、普段より、様々なメディアを通じてもたらされる情報に多く接し、知識量を増やすとともに、その信頼性・重要性などを常に考え、冷静に判断する力を養うことが必要となる。社会に起こる様々な事象に対して、常に興味・関心を持って接し、さらにその事象の、それぞれの立場（国家・民族・宗教等による）による位置づけや、様々な評価についても理解するよう心がけること。（前期実施科目）

２　学習の到達目標

２年次に学習した現代社会の知識をもとに、政治分野の学習を行い、さらに国際経済についても知識を深め、入試に対応できる実践力を身につける。また､入試対策にとどまらず､現代社会における諸課題を認識し、多様な価値観をふまえて冷静な判断をし、その解決についても考察する態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現にむけて参加、協力する態度を身につけ人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとする。そのためにも世の中の動きに常に興味・関心を持ち、積極的に考察しようとする態度をもつ。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、自分の意見を形成し、意見及び判断の過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する様々なメディアの情報・文献などの資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としてのあり方生き方とに関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。その際、多様な価値観があることを理解した上で判断・理解することが肝要である。
評価方法	ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察(特に授業時における問題提議・課題に対する考察)	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察(特に練習課題等への取り組み)

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	個人の尊重と法の支配・近代の民主政治	日本国憲法と基本的人権 ・基本的人権の保障 ・国際的な人権保障 日本の政治機構 ・国会、内閣、裁判所	○ ○	○ ○	○	○	a：日本国憲法で保障されている権利が理解できその保障と他者の権利や公共の利益との調和について関心を持つ。 b：日本国憲法の三大原理や基本的人権の内容が理解できる。国際情勢の変化についても考察を深め、考えを表現できる。 C:三権相互の関係とそれぞれの役割について資料や文献を通じて、理解を深める d：行政機構の拡大の現状を理解し、その是非について主体的に考察・意見を持つ。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察
前期期末	現代の経済・現代の諸課題	現代経済と福祉の向上 世界経済と日本 現代社会の諸課題	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:現在の日本経済・国際経済の特徴と課題に関心を示す。 b:日本経済と国際経済の動向から課題を見いだし多面的・多角的に考察している。 c:戦後日本経済・国際経済に関する資料を文献やメディアから収拾している。 d:日本経済・国際経済の現状と課題について充分な知識を有している。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。